

# 豊水

## 駿河湾深層水によりサクラエビ卵からの幼生長期飼育に成功

サクラエビ *Sergia lucens* は日本では唯一、駿河湾のみで漁獲が行われており、年間の水揚げ量は約 2,000 t、水揚げ金額は約 50 億円と本県の重要な沿岸漁業種となっています。

このため、サクラエビの資源や生態に関する研究は盛んに行われてきました。しかしながらサクラエビの飼育は難しく、卵からの飼育では 61 日という記録が最長でした（成体サクラエビに関しては深層水中で 185 日間飼育したという世界記録（豊水 vol.2）があります）。今回、深層水を使って幼生を飼育したところ孵化後 84 日まで記録を更新しましたので報告します。

平成 20 年 9 月 4 日深夜、県水産技術研究所所属調査船駿河丸により焼津沖で採捕された成熟サクラエビを、5 日朝、駿河湾深層水水産利用施設に搬入し産卵させました。その後、サクラエビ卵のみを容器に収容し孵化させました。飼育水として水深 687m から取水した深層水（17～25 の間で水温調整）を、餌料として幼生前期は珪藻、中期以降はアルテミアを使用しました。

約 1,000 尾孵化した幼生は、孵化後 16 日目には 1 個体のみとなってしまいましたが、同個体は 5～6 日おきに脱皮を繰り返しながら孵化後 84 日まで生残して飼育記録を更新しました。今回、飼育記録を延ばすことはできましたが、1 個体だけの飼育では十分にサクラエビの生態について解明できないことから、やはり複数個体での観察が必要だと感じています。

今後も駿河湾深層水を利用した飼育に挑戦し、サクラエビの生態の一端を明らかにすることで、いずれはサクラエビの資源管理や資源保護に役立てていければと思います。



孵化後 84 日目のサクラエビ

（松浦玲子）